

黒檜山山行報告

【山行日】2022年 1月 26日(水) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 6:00

【費 用】マイカー1台 : 2400円

【メンバー】CL: 鈴木、 嶋田、 藤原ト

【コースタイム】岩舟支所P 6:00 = おのこ
P7:50/8:15 ~ 黒檜山登山口 8:35/9:00 ~ 黒檜山
10:10/10:30 ~ 駒ヶ岳 10:50/11:25 ~ 覚満淵
12:30/12:40 ~ おのこ P13:00/13:30 = あいのやま
の湯 14:00/14:15 = 岩舟支所 P15:45

今シーズンから雪山を始めたいとの要望があり、天気が良い日を選んで黒檜山を計画した。コロナの影響で参加申し込みが少なく、3人で岩舟



支所を出発し赤城山に向かう。赤城山への道路には雪が少なく、今年もほとんど雪道を走らずにおのこ駐車場に着いた。平日なので車が少なく、トイレ前の駐車スペースに車を止め出発の準備をする。2人とも初めての雪山なのでアイゼンを用意し、アイゼンを靴に合せて調整する。準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを行ったら出発する。駐車場から道路に出て左に進み、20分ほど歩くと黒檜山登山口に着く。ここからはアイゼンを装着して登るため、初めての2人にアイゼンの付け方や歩き方を指

導し出発する。いきなりの急登りだが雪の量は多く、大勢の登山者に踏み固められアイゼンが効い

て歩き易い。2人ともアイゼン歩行に直ぐに慣れ楽しそうに登って行く。稜線上出て展望が開けると地蔵岳が見え、眼下には凍った大沼でワカサギ釣りのテントや釣り人が見える。

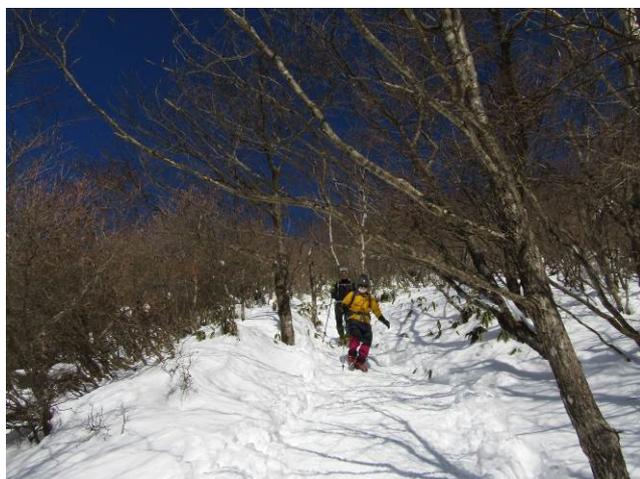
「素晴らしい景色ですね。自分がこんなところに登れるなんて信じられない。」と感動していた。ここからは稜線沿いを登って行き、猫岩を過ぎて富士見平で休憩する。天気が良いので地蔵岳の左に富士山が見えるはずだが、薄雲が掛かり富士山は見る事が出来なかった。

この先からは稜線を外れ、急坂を登るようになる。

古希を過ぎた我輩にはとてもキツイ登りで、いつもは後続が遅れてくるが今回はピッタリ付いてくるので休めない。ようやく「暑いので上衣を脱がしてください」と声が掛かり、小休止して衣服調整をする。ここからさらに急登を頑張ると傾斜が緩くなり、黒檜山頂と南峰の間のT字路に出る。



ここからは展望が開け日光連山の眺望が良いが、今日は薄雲が掛かり見ることが出来ない。T字路を左に平坦な尾根を進むと、まもなく黒檜山山頂に着く。山頂標識の前で記念写真を撮り、すぐ先の絶景ポイントへ向かう。山頂から北側の尾根を進むと絶景ポイントに出て、谷川連峰や上州武尊山、浅間山等上信越の山々が見渡せる。二人は「こんな素晴らしい景色を、自分の足で登って見られるとは夢にも思わなかった。」と大感激していた。大展望を見ながらレモンケーキをいただき、至福のひと時を過ごしたら下山する。下山は往路をT字路分岐まで戻り、分岐を直進して駒ヶ岳に向かう。T字路分岐を直進すると直ぐに南峰に出て、御黒檜大神と彫られた大岩や祠が祀られている。ここから



少し下ると花見ヶ原への道を左に分け、右に急坂を下って行く。所々に木段があるが、雪が多いので木段を気にせず下れる。初めての2人は下りに慣れてないので苦戦していたが、逆ハの字でかかとを拳1個分空けてフラットフットイングに慣れて軽快に降りて行く。アップダウンを繰り返し、下り切った鞍部が大ダルミで小休止して呼吸を整える。ここからゆるやかに

登山り返すと駒ヶ岳山頂で、山頂から東に筑波山が見えるはずだが雲の中で見る事が出来ない。山頂の東の尾根でランチタイムとし、お湯を沸かして各自持参したスープを作る。嶋田さんが持参した芋の煮っ転がしと、お稲荷さんを食べながら景色を楽しんだ。風も無く穏やかな天気恵まれて暖かく、のんびりとランチを楽しむことが出来た。ランチが済んだら下山開始し南の尾根を下

るが、尾根の東側に雪庇が張り出し雪山登山の雰囲気を感じられる場所だ。大洞への下降点に着き、鳥居峠への尾根を確認すると雪が多くトレースもしっかりある。お二人に体力の状態を確認すると「まだまだ大丈夫」と頼もしい返事が返ってきた。そのまま尾根を下って鳥居峠に向かうことにする。地図にないバリエーションルートだが、トレースはしっかりありトレースを外さなければ問題ない。少しルートが解りづらい箇所があるが、無事に鳥居峠に出て覚満淵に向かった。



雪に覆われた美しい覚満淵を縦断し、道路に出たらアイゼンを外す。舗装道路を右に進むと、まもなくおのこ駐車場に着く。トイレを済ませ、靴を履き替えたら帰路につく。途中、あいのやまの湯直売所に寄り、野菜などを買い物し無事岩舟支所に帰着した。